

11月は「自治会加入促進月間」

自治会は、地域に住んでいる人たちがお互いに協力し合って住みよいまちづくりをする自治組織です。これらの活動は、主に自治会加入者のみなさんの会費で、自主的に運営されています。「ぜひ自治会に加入してください」。

市では、毎年11月を「自治会加入促進月間」と定め、自治会加入率の向上に取り組んでいます。市全体の自治会加入率は、以前は90パーセントを超えていましたが、年々低下し、現在の加入率は、76・9パーセントです（平成22年1月末現在）。転入してきて自治会に入らない人がいる一方、自治会に加入している人の中にも、役が回つてくるとや自治会費などに負担を感じる人がいます。

今回、コミュニティや自治会について調査と研究を実践している北九州市立大学の森裕亮教授と、昨年自治会加入率向上に取り組んだ日の里公団アパート2区の藤井俊也町内会長に自治会加入の必要性などについて話を聞きました。

自治会の果たしている役割とは何なのか、改めて考えてみましょう。

問い合わせ先
コミュニティ課
☎(36) 5394

自治会加入率は、なぜ問題と なっているのでしょうか

その理由は、自治会がこれからの地域社会を支えていく上で大きな利点をもっているからです。

自治会研究で著名な中田實さん（名古屋大学名誉教授）は、「自治会とは、一定の地域的区画において、そこで居住ないし営業するすべての世帯と事業所を組織することをめざし、その地域的区画内に生ずるさまざまな（共同の）問題に対処することをとおして、地域を代表しつつ、地域の（共同）管理に当たる住民自治組織である」としています（中田實編代表「町内会・自治会の新展開」自治体研究社、1996年から）。

ここで注目したいのが「地域の共同管理」という言葉です。誤解を恐れず、私なりにこの言葉を解釈すると、「住民が安心して地域で暮らせるために、住民同士であらゆる問題を処理して地域をうまく運営していくこと」です。そこには、関心や利害関係の有無を問わず、みんなで、地域を守り合うという意味が込められていると考えるべきでしょう。これが「自治会の強み」です。



森准教授

だからこそ、地域全体に関わる問題は、すべて自治会の活動対象になりえますし、人々も個別の関心の有無を問わず、活動に参加することが重要です。2008年に実施した市自治会長アンケートの結果をみると、地域の祭りや文化祭などの行事、草刈りや河川清掃などの「地域環境整備活動」、防犯パトロールや不法投棄ゴミのパトロールなどの「秩序維持活動」が、自治会の得意分野であることがわかりました。自治会は、このように住民をとりまく多種多様な問題を、できるだけ多くの住民で解決し合うという性質を持っています。これは、関心あるメンバーで組織され、特定課題に強みを発揮するNPOなどの有志組織と異なる点だと言えます。

自治会の強みを存分に生かすには、多くの住民が自治会に加入することが重要な条件です。しかし、全国的に見ると自治会加入率はだんだんと減る一方にあります。これから、暮らしやすく魅力ある地域社会をつかっていくために、自治会がどうあるべきか、その意義はどこにあるのか。市民全体で自治会のことを考えなければならぬ時代が到来しています。

（北九州市立大学准教授 森裕亮）

①美化活動

快適で住みよい環境をつくるため、一斉清掃や道路沿いに花を植える活動などを通じて、まちの美化をすすめています。ごみ集積場の清掃や、ごみ減量化への取り組みも実施しています。



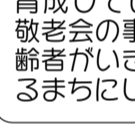
②親睦活動

地域のみなさんの交流や連帯感を高めるため、夏祭りや文化祭、運動会など、さまざまな活動を実施しています。



③支えあいの活動

子ども会を支援したり、学校行事に協力して、地域で子どもを育成しています。また、敬老会の事業などで、高齢者がいきいきと暮らせるまちにしています。



④防犯活動

安全・安心な生活を守るため、防犯パトロールを実施したり、防犯灯や街路灯の設置、管理をしています。子どもの見守り活動にも取り組んでいます。



⑤自主防災活動

地震などの災害に備えての防災訓練や連絡網の整備で、非常時の体制を整えています。



⑥地域の改善提案の取りまとめ

道路や排水路の改修など、行政への意見や改善提案を伝えています。



⑦市広報紙などの配布や回覧

「むなかたタウンプレス」などの市からの文書の配布や回覧をしています。地域の防犯情報やお知らせの回覧もしています。



75世帯も自治会に入会、回覧や広報紙に情報満載です（日の里公団アパート2区）

日の里まつりパレードの様子



アパートやマンションなどの集合住宅では、自治会への入会問題が深刻です。日の里公団アパート2区町内会（*）（22棟・入居430世帯）でも入会者が半減。そこで、昨年11月の自治会加入促進月間を機に、藤井俊也同町内会長（57歳）らが「安全・安心、明るく、すみよい街づくりを推進しましょう」と加入促進に奮闘。1年間で75世帯もの新規加入がありました。

同アパート群は、日の里東小学校前に昭和46年オープン。当時、入居者全員が町内会に加入しましたが、その後の入居者の入れ替わりで、10年前からの会員は40%にまで激減しました。藤井会長は13年前に入居。生活環境部長を経て昨年からは会長を務めています。「このままでは自治会が崩壊する。元気なまちづくりを目指そう」と、未加入者に町内会の活動と行事を案内。「日の里まつりや春秋の一斉清掃、クリスマス会、バスハイクなどのイベントを紹介」「町内

会費は3カ月で1,000円。日の里地区コミュニティへの負担金、路上の防犯灯の電気代も町内会費から」と、わかりやすく呼びかけました。同時にアンケートも実施し、未加入者の意見も町内会の運営に反映させています。この結果、新規に75世帯が入会、会員数は255人にまで増えました。

「大勢の仲間が増えてうれしい。藤井会長の頑張りに感謝しています。わたしは入居15年。グラウンドゴルフや集会所での健康講座などを楽しんでいます。触れ合えば町内会の良さが理解できます」と只松けい子さん（75歳）。



藤井会長

「話・輪・和」。地域のみなさんが話し合い、輪になって、和やかに、大きな絆（きずな）と隣人愛で結ばれるのが自治会です。一度は役員や委員を引き受けてはいかがですか。本当に地域の良さがわかります。

（市民記者 原きよし）

* 町内会は、日の里地区での自治会の呼称